

## 産官学(高大)連携で製作・維持管理を目指す「高知のバス停」プロジェクト

高知工科大学 正会員 ○重山 陽一郎

### 1. 概要

このプロジェクトは、高知県中心部の路線バスの利用環境を改善する取り組みの1つとして、これまで時刻表だけしか表示されていないバス停を改善するため、必要な情報、掲載スペースの検討、バス停の設計・製作及び維持管理を行ったものである。特徴としては、産官学の連携と、工業高校の生徒が製作し、大学生が維持管理をする点が挙げられる。

### 2. 経緯

高知県の公共交通は、長期的な乗客減により大変厳しい状況にあることから、2010年2月に、高知県公共交通経営対策検討委員会（委員長：熊谷靖彦、事務局：高知県交通運輸政策課(当時：公共交通課)）が立ち上がり、様々な検討が行われた。具体的な取り組みの1つとして、より早急に取り組みが開始できること、また、利用者の目に留まりやすいことから、本プロジェクトが行われることとなった。

- ・ 産官学（産：交通事業者（土佐電気鉄道(株)、土佐電ドリームサービス(株)、高知県交通(株)、(株)ですか）、官：高知県交通運輸政策課、学：高知工科大学、工業高等学校）が連携し、検討を行った結果、バス停には路線図、系統図、時刻表が必要との結論に至った。
- ・ 同じ場所に複数のバス会社のバス停が設置されている場所では、それらを統合することとした。
- ・ 検討結果に基づき、高知工科大学の重山が中心となり、見やすく、わかりやすい路線図や系統図の設計を行った。高知県は東西に長いため路線図などもA3横サイズが必要になり、バス停も新たにデザインすることになった。
- ・ バス停の製作は高知県内の工業高等学校の実習の1つとして、土木科、建築科、機械科などの生徒が分担して作成した。
- ・ 平成24年度より設置が開始され、平成25年度末時点で、80基のバス停が設置されている。
- ・ 維持管理は、工業高校の卒業生で高知工科大学に進学した学生が担当する予定である。

### 3. デザインの特徴

工業高校生が製作するという前提のため、その技術と設備の範囲内で製作できるものとする必要があった。また、予算も潤沢な訳ではなかった。さらに維持管理に手間がかからないものとする必要があった。そのため、単純な構造で、作りやすく、精度のばらつきを許容できるデザインとした。また、研ぎすまされたデザインではなく、力の抜けた微笑ましいデザインとした。

デザインの過程では試作を繰り返し、作りやすさだけでなく、利用者からの見やすさ、バス会社からみた使い易さにも配慮した。

### 4. 維持管理に向けて

デザイナーにとっても職人にとっても、作ったものがどのように傷み、どんな補修が必要になるかを学ぶ事は重要である。本プロジェクトでは、高校でバス停の製作に関わった生徒の中で、高知工科大学に進学した学生が中心となって、2014年度からバス停の維持管理を行う予定である。

---

キーワード 高大連携, 維持管理, バス停

連絡先 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185 高知工科大学 shigeyama.yoichiro@kochi-tech.ac.jp



左上：新バス停設置前  
左下：新バス停設置後  
右上：新バス停の記載情報



- ・ 左上の写真の新バス停設置前は、事業者毎にバス停が設置されており、掲示されている情報は、多くのバス停で時刻表のみであった。
- ・ 左下の写真の新バス停設置後では、1つのバス停を全ての事業者で共有し、情報が1か所に集約されたことによる利便性が向上し、乱立解消による景観の向上も果たした。
- ・ 右側の写真のように、掲示情報の強化（上から順に、系統図、平日の路線バス時刻表、土日祝日の路線バス時刻表、空港連絡バスの時刻表の4段。通常はA3用紙3枚分の3段であるが、空港連絡バス用に1段多くしてある。）によって、利用者の利便性が向上した。

